

播種性血管内凝固

英語名 : Disseminated Intravascular Coagulation (DIC)

同義語 : 全身性凝固亢進障害、消費性凝固障害

患者の皆様へ



ここでご紹介している副作用は、まれなもので、必ず起こるというものではありません。ただ、副作用は気づかずに放置していると重くなり健康に影響を及ぼすことがあるので、早めに「気づいて」対処することが大切です。そこで、より安全な治療を行う上でも、本マニュアルを参考に、患者さんご自身、またはご家族に副作用の黄色信号として「副作用の初期症状」があることを知っていただき、気づいたら医師あるいは薬剤師に連絡してください。

血が著しく固まりやすくなることによる臓器の障害や血のかたまり（けっせん血栓）を溶かす過剰な生理的反応による著しい出血傾向をきたす「はしゅせいけっかんないぎょうこ播種性血管内凝固」は、がん、感染症などの悪化により引き起こされる場合があります。治療の過程において、何らかのお薬を服用していて、次のような症状がみられた場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

「あおあざができやすい」、「鼻血」、「歯ぐきの出血」、「血尿」、「鮮血便」、「目（結膜）の出血」などの出血症状に加えて、「意識障害」、「呼吸困難」、「どうき」、「息切れ」、「尿が出なくなる」、「黄疸」などの臓器症状が持続あるいは急激に悪化する

1. ^{はしゅせいけっかんないぎょうこ}播種性血管内凝固とは？

播種性血管内凝固（DIC）とは、主な症状として、出血しやすくなる、また、全身の微小な血管の障害及び血管がつまることにより臓器に障害が現れます。症状が重くなると、ショックやまれに溶血性貧血をとともないます。

なお、DICの発症は通常の医薬品の副作用と異なり、がん、重症の感染症など非常に重い病気を持つ患者に発症することが多く、主に入院患者で状態の悪化に伴い発症することが多いと考えられています。したがって、多くの抗生物質や抗がん剤に関する副作用報告がありますが、必ずしもこれらの全てがDICの原因であるとは言えません。

2. 早期発見と早期対応のポイント

がん、重症の感染症などの患者さんで、「あおあざができやすい」、「鼻血」、「歯ぐきの出血」、「血尿」、「鮮血便」、「目（結膜）の出血」などの出血症状に加えて、「意識障害」、「呼吸困難」、「どうき」、「息切れ」、「尿が出なくなる」、「黄疸」などの臓器症状が持続あるいは急激に悪化する場合には、放置せずに、ただちに医師・薬剤師に連絡してください。

※ 医薬品の販売名、添付文書の内容等を知りたい時は、このホームページにリンクしている独立行政法人医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページの、「添付文書情報」から検索することができます。

<http://www.info.pmda.go.jp/>

